

研修報告書

会派名： 政和会

年月日	1年 7月 31日（水）～ 1年 8月 2日（金）
場所	①北海道函館市役所 ②北海道ニセコ町役場 ③北海道小樽市役所
研究会・研修会名	1 タブレット端末を活用した「ペーパーレス市議会」について 2 「SDGs未来都市計画」について 3 「おたる案内人ジュニア育成プログラム」について
参加した議員の氏名	小野高一、磯山亮、松岡篤、鈴木洋一、比留間洋一、山田大輔、福室英俊

目的・内
容・結果等

- 1 **目的**：小平市においても導入が検討されているペーパーレス市議会についての効果と課題について視察をおこないました。
資料のデータ化や迅速な連絡体制づくり等による議会・議員活動の効率化を図るとともに、各種会議における情報を積極的に発信し、議会に対する意見・要望を取り入れることで市民と議会の情報共有を図り、議会運営に反映しやすい環境（見える化）を整えるため、情報通信技術（ICT）を活用する。
内容：議会・議員活動の効率化を推進するため、各種通知の電子メール化や資料のデータ化、タブレット等の会議場持ち込みを許可してテレビ会議の導入を行う。議会運営の見える化では、決済システムや議場スクリーンの導入、積極的な情報発信をすることで議会への市民の意見・要望を広範囲から取り入れることが出来る。
結果：函館市議会は、タブレットの導入を含め、平成30年5月から実施されています、最新のペーパーレス市議会だと思い、行政視察に伺いました。
タブレット端末1台2GBで1ヶ月あたり70GBで35台導入しました。
クラウドサービスは、東京インタープレイス(株)で5年契約、年間280万円の費用がかかります、費用対効果につきましては、コピー代や用紙代と比べると同等くらいという回答でした、また議員に対する説明・勉強会は2時間半でした。
これからますますICT化が進んで行き、インターネット関連の費用も安くなる傾向にあります、小平市議会も是非導入すべきだと思います。
- 2 **目的**：ニセコ町は2018年6月、SDGsに関する優れた自治体の取り組みを国が選定する「SDGs未来都市」に選定されました、小平市でも世界共通の「持続可能な開発目標」の取り組みを小平市においても可能であるか、効果と課題について視察を行いました。
内容：8月1日はお忙しい中、ニセコ町長片山健也さんがお越しになり、ご挨拶をいただいた後、内容の説明、質疑応答となりました。
現在ニセコ町の人口は5,000人、内外国人は280人と伺いました、もともとニセコ町はまちづくりの2大原則として「情報共有」「住民参加」があり、SDGsを取得しやすい環境にあり、住民の皆さんが自主的に取り組んできた経緯があります。
また取り組みを支えるために町職員「まちづくり専門スタッフ」の育成を行っています。
結果：メリットとして、ニセコ町は微増であるが人口の増加や税収の増加傾向、30歳台～40歳代の住民の増加や子供が増え建物の新設、企業の進出が多くなってきています。
具体的な取組事例は、
 - エネルギー・景観、交通に優れ、自治活動が盛んな街区の形成
 - 地域エネルギーを活用した地域熱供給エネルギーの形成（駅前）
 - 自治を実現するため、情報共有・住民参加を継続課題は
 - 経済では、地域経済環境と「稼ぐ力」の強化
 - ・環境目的税の導入検討・実施
 - ・創業支援・企業進出支援
 - ・下水道等基盤インフラの整備
 - 環境では、省エネ、再エネ導入の促進、資源循環
 - ・環境配慮型個別・集合住宅の建設促進
 - ・地域資源を活用した地域熱供給導入（JR駅前）
 - ・環境配慮型象徴的新庁舎の建設（兼防災センター）
 - 社会では、安心して住み続けられる地域のコミュニティーの形成
 - ・民間資本活用集合住宅建設等促進条例
 - ・交通体系の最適化による生活の質の向上
 - ・防災センター建設による防災機能強化
 - ・情報共有と住民参加のまちづくり継続

目的：「おたる案内人制度」は、小樽の歴史や文化などに対する幅広い知識を有した人材の育成を目指すプログラムで、平成18年にスタートした、またジュニア育成プログラムは、市内の小学生がおたる案内人から授業を受け、実際に観光客に対してガイドを實踐し、次世代を担う人材育成と、市民が市民に伝える循環型の観光人材育成の仕組みづくりに繋がっている。

小平市においても、地域活性化のため、市と市民の協働活動として「ジュニア育成プログラム」が活用できないか視察を行いました。

内容：近年の小樽観光は、全国的に知名度が定着し、若者グループから熟年の夫婦や、修学旅行、家族旅行などさまざまな形態の観光客が訪れています。

また台湾、香港、中国、韓国などアジア地域から多くの外国人も訪れます。

「おたる案内人認定制度」を企画提案した当時（平成18年）小樽は多くの観光客が訪れるまちになっていた、ところが、観光ガイドはほとんど無く、独学でガイドをしていたため、解説内容に多少問題があると専門家からの指摘もあり、きちんとした小樽の歴史を解説できるガイドを養成する仕組みが必要な時期にきていた。

資格は3種+基礎で

2級・・・誰もが受験できる。

小樽観光ガイドに必要な基礎的な知識を身につけている。

1級・・・受験資格は5講座（5日間）必須。

主に観光関連従事者とガイドを目指す人が対象。ガイドができる知識を身につけ、おもてなしの心を理解している。

マスター・・・受験資格は1級取得者で2講座（1日）必修

主に観光ガイドを目指す人が対象で専門的な知識を身につけ、おもてなしの心を理解していて、小樽観光の案内ができる人。

基礎・・・誰もが受講できる（1日）で終了、試験なし）

小樽のなりたちの基本的な知識を大まかに勉強する。

「おたるジュニア育成プログラム」は、上記検定に合格した「おたる案内人」が、小樽市内の小学生に対して、地域の歴史を伝え、観光ガイドを實踐させる取り組みとして平成23年度にスタートした。

具体的には、小樽案内人が市内の小学生（1個所）5、6年生の総合学習の時間において、全34回（平成28年実績）授業を實施し、最終プログラムとして市内観光スポットにおいて、観光ガイドを實施するもの。

結果：ジュニアプログラムは平成29年度で6年目を迎えた。6年間変わらずコンセプトにしているのは、第一に、自分たちが暮らす小樽の歴史を学ぶことで、郷土愛（シビック・プライド）を醸成すること、もう一つはプログラムを通じて、学んだことを実際に観光客にガイドすることで、表現力を養い、社会力を育もうということ。

このプログラムを通じて児童たちは、なぜ小樽にたくさんの観光客が来るようになったかを知り、歴史的建造物が建ち並ぶ景観の意味も理解するようになっている。

ガイド實踐を通じ子どもたちの素直なおもてなしの気持ちが観光客に伝わり、小樽の対観光客受け入れのイメージアップに繋がっている。